

市教研だより

No.106
平成30年3月16日発行
平成29年度 総集号
多治見市教育研究会

「つみあげ」こそ、貴重な財産として

多治見市教育研究会 会長 永治 友見

平成29年度、多治見市教育研究会の研究主題「一人一人が自己充実感をもつ指導」の達成をめざし、それぞれの部会において、熱心に研究実践を推し進めてもらうことができました。ありがとうございました。

昭和56年度にスタートした多治見地区教育課題の研究推進は、多治見市教育委員会・笠原町教育委員会の指導のもと、平成17年度まで取組を続けられました。その後、平成18年1月の合併を契機に、多治見市教育課題の研究推進として、今日まで長年にわたって継続され、他市町から注目された研究組織・体制でありました。

当初の研究主題を「ひとりひとりに自己充実感をもたせる学習指導」として掲げ、下記のような「めざす授業の要件（一部掲載）」を意識した研究実践が展開されてきました。

【子どもに課題をもたせる】

- ・課題提示から子どもの課題意識を生ませる。
- ・子どもたちの考えのズレから課題を生ませる

【課題追求に教師の働きをはっきりさせる】

- ・発問や助言等で子どもの考えを繰り返し練る
- ・子ども同志の考え方をまとめ、集団での追求を効率化する。

【基礎的・基本的な内容を身に付けさせる】

- ・ねらいのはっきりとした授業とする。
- ・練習や試みを組み込んで、定着化を図る。
- ・教えること考えさせることを明確にする。

【個別化を図るための手立てを考える】

- ・授業中に一人一人をつかむ場と方法を明らかにしておく。
- ・能力差に応じた個人指導の場を工夫する

この要件を踏まえ、授業の充実をめざした様々な工夫・改善が行われ、授業づくりを中心とした継続的な取り組みによって大きな成果をあげてきました。

市教育課題に関する15年前の記録に目を通すと、基本的な学習習慣として求めていたものは、いかにして正しい姿勢で、静かに教師の話の聞かせるかが中心であったと記されていました。

平成8年度には、新しい学力観に基づき、一人一人の児童生徒が自らの力で主体的・自主的に学習や諸活動を展開することが何よりも大切であり今まで以上に児童生徒理解に立った学習を展開するための授業改善が求められたために研究主題を「一人一人が自己充実感をもつ学習指導」と改めてきました。これは、児童生徒が「自己充実感をもつ」ために、「学習したい」という意欲をもち自らの力で追究し、「わかった。できた。やりきった。」と実感できるようにするために、「学ぼうとする興味・関心・意欲を把握するための児童生徒理解」や「興味・関心・意欲を引き出し、追究する学び方の指導法の工夫改善」、「学んで得た力の位置付けと継続して追究していく意欲を育成するための評価」が明確となっている授業の展開こそが重要であると考えられたからです。教師が、児童生徒一人一人の見方や考え方を生かしながら自己決定や相互追究の場を確保し、自己充実感につなげていかなければならない。

平成32年度に迫った学習指導要領の改訂はこれまでの指導要領で中心となっていた学習の内容（何を教えるか）だけでなく、これからの児童生徒に必要な資質・能力（何ができるようになるか）について、各教科や学年ごとに①知識・技能 ②思考力、判断力、表現力等 ③学びに向かう力、人間性等の柱に沿って整理され、児童生徒が学習に取り組む目的や意義を明確化されていますが、30数年間と長きにわたって「つみあげ」られてきた多治見市（地区）教育の研究の成果を基盤にさらなる発展・充実をめざして取り組み続けていきたいと考えています。

平成30年度の基本方針と 研究の方向について（案）

1 研究の構え

（1）研究主題

一人一人が自己充実感をもつ指導
～できる・わかる喜びを味わい、
自信をもてる授業をめざして～

（2）主題設定の理由

第2次岐阜県教育ビジョンでは、「学力向上を核とした小・中学校教育の改善」が重点施策となっています。多治見市教育研究会では、授業において「一人一人が自己充実感をもつこと」がその根幹を支える要件であると捉え、さらに学習の主体者である子どもたちが「できる・わかる喜びを味わい、自信がもてること」がそれを推し進めるために最も重要であると考え、このことをサブテーマに設定し、研究と実践を積み重ねてきました。

この点から平成29年度の各研究部会の実践を振り返ると、本時身につけさせたい力を明確にしたり、個のつまずきに応じた指導・支援等を工夫したりした単元指導計画を作成し、児童・生徒一人一人に「できる・わかる喜び」を味わわせる授業づくりを進めていただきました。また、「主体的・対話的で深い学び」を念頭におき、ペアやグループでの話し合いを意図的に位置付けていただくこともできました。評価活動では、自己評価や相互評価等をねらいに合うように工夫して取り入れていただきました。さらに、ユニバーサルデザインの授業づくりという視点から見ても、子どもの実態を着実にとらえて、視覚的な支援を取り入れたり、わかりやすい提示やICTを効果的に活用したりする等、一人一人の学びに有効な手立てを講じていただきました。

また、部会の運営に当たっては、発達段階間のつながりを確かめるために、小学校、中学校合同で研究会を開催していただいた部会もありました。

一方で、「子どもにとって課題や活動に必然性がなかったのではないか」「評価の内容がねらいとずれているのではないか」「評価をする時間が足りなかった」等の課題を研究会の中で明らかにしていただきました。

このように平成29年度は各部会で、一人一人に「できる・わかる喜び」を味わわせ、子どもたちに自信をもたせるための工夫をしていただくことで、一定の成果が確認されました。また、今後検討したい課題も見えてきました。そこで、平成30年度は今年度の成果を生かし、さらに研究を深めていくこととします。

（3）研究の方針

サブテーマ「できる・わかる喜び」を味わい、自信をもてる授業をめざして、実践研究を進めます。今年度の実践を踏まえ、一人一人に「できる・わかる喜び」を味わわせ、さらに「自信をもたせる」をキーワードにして授業づくりを進めます。各部会で、めざす姿を具体的に描き、何をどのように学ぶのかを明確にしながら「単元指導計画、一単位時間の工夫」「指導・援助」「評価」を観点に、児童・生徒に「できる・わかる」喜びを味わい、自信がもてる授業を創造していきたいと考えます。

（4）授業づくりのポイント

次の3つのポイントに授業づくりを進める上で、個の理解や見届けに基づいた授業のユニバーサルデザイン化を図ることを基盤におきます。

○単元指導計画・題材指導計画、授業展開の工夫

- ・児童・生徒の思考に即した単元指導計画
- ・身に付けた知識・技能が生かされ、その有用感を味わうことができる指導計画
- ・発達段階間のつながりを考えた単元指導計画の作成等

○指導・援助の工夫

- ・必然性のある課題や活動
- ・主体的な学びを生むための発問
- ・全ての児童生徒が確かな知識・技能を身に付けさせるための指導
- ・個の学習状況や定着状況の見届けと、対象とする児童生徒を明確にした個別指導や援助の工夫等

○評価の工夫

- ・自身の伸びや成果を実感することができる場の設定
- ・自身の成果や課題をつかむための評価・自己評価の工夫
- ・仲間の伸びや成果を認め合うための相互評価の工夫等

【授業のユニバーサルデザイン化について】

全ての子どもが楽しく『できる・わかる』ように工夫・配慮された授業づくりを進めます。ユニバーサルとは、みんなに効果のある“1つの”方法を示しているのではなく、提示や表現、参加方法において様々な選択肢を用意することで、様々な個性をもつ一人一人の多様性に合わせた対応ができるならば、それもユニバーサルな支援であるとされています。

一人一人の多様性に応じるために、まずは、児童・生徒の実態を見届け、児童・生徒の実態・教科の特性・指導場面に合わせて学習活動、支援を工夫します。

2 平成30年度多治見市教育研究会 各研究部会における研究の方針について

【教科研究部会】

■小学校国語

生きてはたらく言葉の力を伸ばすために
～一人一人の言語能力を育てる国語科指導～

- ・単元（本時）で、身につけたい「生きてはたらく言葉」の明確化
- ・「生きてはたらく言葉の力」を身につけさせるための指導方法や学習方法の工夫
- ・「生きてはたらく言葉の力」が身に付いたかどうかの評価方法、指導・援助の手立て

■小学校社会

よりよい社会の実現を目指す子が育つ
社会科学習
～社会的事象の意味を問い続け、
社会認識を深める授業を通して～

- ・社会的事象の意味を問い続け、社会認識を深める教材化や単元構成
- ・社会的事象の意味を問い続け、社会認識を深める学習活動
- ・社会的事象の意味を問い続け、社会認識を深める指導・援助や評価

■小学校算数

基礎的・基本的な知識及び技能を
確実に身につけさせる指導のあり方

- ・算数の内容の系統性に基いた指導計画の作成
- ・ねらいを焦点化し、ねらいを達成させるための学習活動や指導方法の工夫
- ・自信につながる評価のあり方

■小学校理科

理科の見方・考え方を働かせ、
自然を追究する子を育てる指導の在り方

- ・働かせる理科の見方・考え方を位置付けた指導計画の工夫
- ・問題を科学的に解決するための指導の工夫
- ・子どもが資質・能力の高まりを自覚するための評価の在り方の工夫

■小学校生活

気付きの質を高め、自立への基礎を養う
生活科学習

- ・年間指導計画・単元指導計画作成の工夫
- ・学習過程・学習活動の工夫
- ・評価と指導・援助の工夫

■小学校音楽

音楽のよさを感じ、
思いを豊かに表現する授業

- ・〔共通事項〕を手がかりに、子どもの学びが連続・発展する題材指導計画の工夫
- ・よりよい表現を求め、主体的・協働的に学ぶ学習活動の工夫

■小学校図画工作

ひとりひとりにつくる喜びを
～豊かに発想し、自分らしく表す
図工・美術の実践を目指して～

- ・発達段階を考慮した系統性のある題材配列、題材設定の工夫
- ・子ども達が「自分らしさ」を発揮して表現するための指導援助や環境設定の工夫
- ・できる・わかる喜びを実感できる評価の工夫

■小学校体育

運動の楽しさを味わう体育学習の創造
～ボール運動の授業を通して～

- ・児童の発達段階における、運動習熟のみちすじの明確化
- ・仲間と関わりをもつ言語活動
- ・どの子どもも楽しめる場の設定

■小学校家庭

自分の成長を家族とのかかわりの中で実感し、
自らの生活を創り出す子の育成

- ・子どもの意識の流れを大切にされた指導構想の工夫
- ・主体的な学びを生み出すための問題解決的な体験学習活動の工夫
- ・主体的な学びに生きる評価の場面と評価方法の工夫

■小学校外国語活動

『できた・わかった』を実感しながらコミュニケーションに挑み続ける児童を育てる指導

- ・”Small Talk” や中間交流のもち方の研究
- ・「多治見スタンダード」型の英語の授業づくり
- ・コミュニケーションの必然のある課題設定と出口とのつながり

■小学校特別支援

豊かな生活をめざし、生きる力を共に高め合う
子どもの育成
～一貫性・柔軟性のある支援体制・支援方法の充実～

- ・個のねらいに対する有効な手立て
- ・見通しをもたせる工夫
- ・達成感をもたせる工夫

■中学校国語

自ら言語能力を高める生徒の育成

- ・身につけさせたい言語能力を明確にすること
- ・言語能力を身につけさせるための指導・援助の工夫
- ・生徒の実態に応じた指導・援助の工夫

■中学校社会

主体的に社会の形成に参画する力を育てる
社会科学習

- ① 指導計画の工夫
 - ・単元構造図の作成
 - ・単元の中の一つ一つの授業の役割を明確にした単元指導計画
- ② 指導方法の工夫
 - ・基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得とそれらを活用させるための手立ての在り方
 - ・多面的・多角的に考察し、認識を深めるための手立ての在り方

■中学校数学

深い学びを具現化する数学教育の創造
～主体的で対話的な学びを通して～

指導計画の工夫

- ・学習内容の系統性や各単位時間の役割を明確にし、活用する既習の学習内容を明らかにした指導計画の作成
- 指導方法の工夫
- ・学習内容の系統性をもとに見通しをもたせるための指導の在り方
- ・既習の学習内容を活用して筋道立てて考察できるようにするための指導の在り方
- ・自己の変容を自覚できるようにするための評価の在り方

■中学校理科

見方・考え方を働かせ、主体的な問題解決を通して、科学的に探求する力を育てる理科指導

- ・実感を伴った理解につながる教材・教具の工夫
- ・3つの見届けの定着
- ・自己の変容を認識できる学習評価の工夫
- (4) 自己の変容を認識できる「学習評価」の工夫

■中学校音楽

音楽の仕組みを探り、
追求の深まりを実感する授業

- ・〔共通事項〕を足場に、子どもの学びが連続・発展していく授業計画の工夫
- ・追求の深まりを実感できる学習活動の工夫

■中学校美術

ひとりひとりに「つくる喜び」を
～豊かな心と表現力を育てる美術教育～

- ・感性をはたらかせ、豊かに発想する力を伸ばし表現・創造的な技能を身に付けさせる
- ・自分の作品に自信と愛着をもてるようにする
- ・地域の文化に触れ、その良さを味わい、関心を深める

■中学校保健体育

一人一人に力を付ける保健体育授業の創造

- ・個に応じた指導の在り方
- ・評価活動の在り方

※どちらも積極的にICTを活用していく。

※単元は「現代的なリズムのダンス」

■中学校技術・家庭

一人一人が自己達成感をもつ指導

- ・題材指導計画の改善、単位時間の展開の改善
- ・指導・援助の在り方（ICT機器の活用）
- ・評価の在り方

■中学校英語

外国語を通じて、コミュニケーション能力の
素地・基礎を養う指導を求めて
～英語の4技能を関連付け、
総合的に育成する指導の在り方～

- ・帯活動を中心とした知識・理解を深める言語活動の充実
- ・Sharing Time を利用した相互評価の在り方
- ・4領域の総合的な育成を目指した指導の在り方

■中学校特別支援

一人一人が自己有用感をもつ授業
～できる・わかる喜びを味わい、
自信のもてる授業をめざして～

- ・単元指導計画・題材指導計画、授業展開の工夫
- ・指導・援助の工夫
- ・評価の工夫

【職務別研究会】

■校長

諸課題に立ち向かう学校経営と
校長の指導性の発揮
確かな学力の育成を目指した学校経営の在り方
～教職員の資質向上のための校長の指導性～

- ・授業参観及び施設見学
- ・学校経営講話（訪問校の校長）
- ・退職される校長先生の講話
- ・講話（行政講話、研修講話等）又は各種委員会報告・協議
- ・グループ研修
- ・研修視察

■教頭

教職員の専門性を育み、
資質向上を図るための教頭の役割

- ・「教職員の専門性に関する課題」を研究テーマとする

■養護教諭

養護教諭としての専門性を高めるために

- ・専門性を高めるための研修
- ・身体測定時（健康診断・アレルギー対応等）の見直し（多治見市共通方式の検討）
方法の実践、改善

■事務

学校現場に貢献する連携活動を追究する
～学校間連携で作るつながり～

- ・連携研…少人数体制による資質向上研修・相互の業務支援
- ・グループ研…学校全体の事務処理改善を目的とする教職員への支援
- ・全体研…業務の連絡調整・情報伝達等、共通理解を図るための全体調整

■栄養

食の楽しさを味わい
自ら判断し実践する力を育む食育の推進
～学校給食を活用した指導の充実～

- ・教科と学校給食を関連させた指導の工夫

※ 研修テーマ（主題）は、平成29年度末時点のものです。今後、見直される可能性もあります。ご承知おき下さい。



「基礎的基本的な知識及び理解を確実に身に付けさせる指導のあり方」について考える

小学校算数部会
昭和小学校 清水 美和子

小学校算数部会では、「基礎的基本的な知識及び理解を確実に身に付けさせる指導のあり方」について、①算数の内容の系統性に基じた指導計画の作成、②ねらいを焦点化し、その達成のための学習活動や指導方法の工夫、③自信につながる評価の工夫に重点を置いて研究実践してきた。

6月には、長谷川夕子教諭、杉浦英美教諭（昭和小学校）が、第4学年「わり算のひっ算」の単元で授業を行った。課題追求においては、「たてる、かける、ひく、おろす」の言葉を使って、ペアで交流することを通して、筆算のし方の理解を確かにすることができた。また、評価問題を適切に設定することで、理解できているかを確実に見届け、児童の自信につなげることができた。授業の終盤では、進んで多くの問題に取り組む児童の姿を見ることができた。

11月には、上条和佳子教諭、安藤薫教諭、市原早絵教諭、北原あゆみ教諭（共栄小学校）が、第6学年「比例と反比例」の単元で授業を行った。この授業では、個人追究、全体追究、評価問題、それぞれの場面での確かな指導・援助が行われた。また、個人追究後、全体追究後、評価問題後の3回、交流のねらいを明確にしてペア交流を行うことで、自分の考えに自信をもたせたり、キーワードを使って説明させたりすることができた。仲間に説明することを通して、比例関係を用いて問題を解決することへの理解が深まり、評価問題に自信をもって取り組むことができていた。

2月は、講師に山路健祐教諭（瑞陵中学校）を迎え、「基礎的基本的な知識及び技能を確実に身に付けさせる指導のあり方」をテーマに講演会を行った。算数の系統性として「何を学んだか」と共に、「どのように学んだか」ととらえることが大切であることや、交流の場を設ける際は、個の理解を深めるための交流になるよう、発達に応じて交流のし方を工夫することが大切であることなど、今後の研究につながる考え方を学ぶことができた。

一人一人が自己達成感をもつ指導

中学校技術・家庭科部会
小泉中学校 勝川 健司

中学校技術・家庭科部会では、「一人一人が自己達成感をもつ指導」をテーマのもと、①題材指導計画の改善、単位時間の展開の改善。②生徒がスムーズに課題解決にとりかかれる指導、援助の在り方（ICT機器の活用）。③評価の在り方を考えて、どの生徒も大切に自己達成感をもたせること。として、研究実践を行ってきた。

6月には、多治見中学校の鈴木祥司教諭が、1年生で題材「収納ラックの設計」の授業を行った。材料の特徴や棚板の高さの検討を本時までに行うことで、牛乳パックを使った構造の工夫がスムーズにできた。また、生徒の実態から体験的に活動できる場面を増やしたり、「使いやすさ」「強さ」を大切にしながら、構造図を考えさせる手立てとして、板材カードを利用し、視覚的に材の役割が分かるように工夫したりした。評価の工夫としては、構想図プリントを修正した足跡が分かるようにしたことで、生徒の思考の流れが理解できるようになった。

11月は、精華小学校の宇佐見美名教諭の5年生「日常の食事と調理の基礎」の授業研究に参加した。小学校との連携を図り、家庭科の授業研究を行うのは2回目になる。児童は、教師の意図するように、話型を大切に根拠のある発言をしていた。また、小学校と中学校の学習のつながりを見直すことができた。みそ汁の実の煮え方の違いを体験させることで、「やってみよう」と思わせる課題提示の工夫があった。今後さらに、小中学校だけでなく、高校の家庭科の学習にもつながるように考えていきたい。

2月は、「基礎縫いブックカバー」の制作を通して、教材研究を行った。文溪堂の方を講師に招き、技術分野の教師も生徒と同じ課程をふんで製作をした。アイロンで布のしつけをすることなど、仕上がりよくするために必要な作業があることを実感できた。

今年度の研究から、生徒の実態から題材指導計画を作ることや、単元を貫く課題をもとに、指導援助の仕方を工夫することを大切にできた。また、課題としては、授業の視点を明確にして生徒の思考の流れを考えていけるようにしたい。

来年度も、小学校と中学校の連携を図りながら、授業を通して意欲的に、生活の中で創意工夫できる生徒を育てていきたい。

ひとりひとりに「つくる喜び」を ～豊かな心と表現力を育てる造形美術教育 地域を生かす教育の在り方～

小学校図画工作部会
小泉小学校 服部 千英

図画工作部会では、～地域を生かす教育の在り方～をテーマにして①題材設定の確かさ②自分らしさを表す指導③できる分かる喜びを与える評価の3点をねらいとして題材開発・指導の方法を工夫している。

6月は、北栄小学校の野村直子教諭の『泳げ魚』で、粘土を使って「魚」を製作した。タイルとの出会わせ方において、子ども達がタイルを宝石のように大切にしながら、強い関心をもって扱う様子が見られた。魚らしさや動きでは、魚をじっくりと観察したものを造形に生かしていた。また、飾りの美しさでは、タイルを眼として、効果的に使う児童もいた。ひとりひとりがちがう形の表現であり、表現することを楽しみ、自分自身の願う形を追求する児童の姿があった。

11月は、根本小学校の鈴木みゆき教諭の『スイミーたちの遊び場』で、粘土を使って、スイミーたちの遊び場づくりをした。粘土を握ったり押ししたりして、形の面白さを感じながら、製作した。教師の提示作品を示すと歓声があがるなど児童の反応もよかった。また、教師の示す演示では、どのようにすればいいのかが分かりやすく、「ニギニギ」や「ギュッギュッ」などの擬音から表現方法をイメージしやすく、効果的な方法であった。造形遊びとして、試行錯誤しながら、豊かな表現をすることができた。

2月は、「土と版画展」の作品交流会を行った。版画作品では、指導することはしっかりと指導し、児童が「こうしたい」という思いをもって技能を選び、作品作りに取り組んでいけるようにさせたい。中学年になると人物表現が少なくなることは今後の課題として考えていきたい。粘土作品では、楽しみながら作っていることが分かるような作品作りができるとよい。これからは、新しい題材開発をしつつ、さらなる豊かな粘土表現ができるとよい。

主体的に社会の形成に 参画する力を育てる社会科学習

中学校社会科部会
小泉中学校 平子 泰寛

社会科部会では、生徒一人一人が主体的に学ぶ姿を目指し研究を重ねてきた。意欲的に課題を追究するために付けていきたい資料を活用する力や、社会的事象の意味や、その理由を考える力など、生徒に付けたい力はたくさんあるが、今年度市教研で授業を見せて頂けた先生においては、単元を通して、また1単位時間において生徒に付けたい力が明確になっており、単元の出口で生徒がどのような姿になっているべきかをイメージしきって指導されていた。

11月の多治見中学校の日比野圭介教諭の授業では、3年生公民分野「地方自治と私たち」で身近な多治見市が取り上げられた。人口が減っていき、将来消滅の危機にある多治見市を、「住み続けたい」と思うような都市にするために、生徒はよく考える授業が展開された。

2月の南ヶ丘中学校の深萱健次教諭の授業では、オーストラリアを始めとするオセアニアの各国が多文化社会に変化している理由を考える授業であった。移住に伴う生活の変化を的確に資料から読み取り、多様化する社会に対応しようとする人々の取組が追究できた授業であった。

2つの授業を通じて、「中心的な資料を丁寧に扱い、全員に同じ学びの機会を与えたい」、「協働的な学びとはどのようなものか」といった点が話題になった。

本年度の実践を踏まえ、新しい「共働的な学び」という要素を取り入れながらも、不易である「資料をじっくり読みとる」場も設定し、一人一人に力を付けていく授業ができるよう、各先生方に研究を進めて頂きたい。

